

想定利用者に対する意見聴取の取り組みについて

(1) 意向調査（アンケート）

「大熊町の社会教育施設整備に係る意識調査」（実施済）

（目的）想定利用者の現在の社会教育関係施設利用状況やニーズの把握、検討を進めている新施設に対する要望等の把握。意向調査を介した施設整備計画の周知。

（期間）令和4年8月末～9月末

（対象）大熊町民及び町内居住者、町内勤務者、来訪者

（結果）別紙報告資料2-2のとおり（回答者数142人）

- ・月に1回以上利用している社教施設が「ない」人が102人と突出
- ・その理由①「必要性を感じない」②「生活圏に利用できる施設がない」
- ・新施設に対しても89人は「生活圏から遠い」を利用の障害としている

(2) ヒアリング調査

（目的）想定利用者の対象ごとに3～5人程度面会し、それぞれの生活形態に基づき、より具体的な施設利用に係る課題や要望を把握する。

（期間）令和4年10月～

（対象）

- ・東京電力職員寮入居者 5人（10月6日実施済）  
ー以下予定ー
- ・大熊インキュベーション施設入居者
- ・大熊町公営住宅入居者
- ・町内コミュニティ団体
- ・生涯学習事業関係団体
- ・避難先町民

(3) ワークショップ

第1回「本と文化財と公文書と場があれば、何ができる？」（実施）

（日時）令和4年5月28日（土）

（場所）大熊町役場多目的ホール

（対象）関心のある方ならだれでも

（参加者）6名

第2回「未定」

（日時）令和4年11月5日（土）午前中を予定

（場所）大熊町役場大会議室

（対象）同上